

場面緘黙の出現率に関する基本調査(2):大規模調査の必要性(1)

○梶 正義
(関西国際大学人間科学部)
KEY WORDS : 場面緘黙

藤田 継道
(臨床行動分析学研究所)
出現率 小学生

【問題と目的】

疾病の早期発見と早期治療の重要性は万人の認めるところである。障がいのある早期発見と早期療育についてもほぼ万人に認められていると言ってよい。場面緘黙(selective mutism:SM)の場合も早期発見と早期対応が重要である。自己の心情を語ることのできる多くの SM 体験者は「個性だから放っておいてほしい」とは思っていない(かんもくの会, 2007-2011)。成人後も SM を抱えたまま引きこもりの状態が続いている人がいる。本人の苦しみはもとより保護者の苦しみがいかに大きいか語られているが、その事実がほとんど知られていないし、SM を克服した SM 経験者であっても、いまなお人前で話すことに不安や苦痛を感じている(かんもくの会,2007-2011)。

わが国では SM の早期発見・早期対応が欧米に比べて遅れている。SM の早期発見・早期対応を促すには、①SM 発症の時期と発症のメカニズムの解明と対応法の検討、②SM の経過と予後の解明と対応法の検討が解決すべき重要な課題となる。そして、③これらの課題を解決するシステムの構築が必要となってくる。このシステムの構築には、厚生労働省や文部科学省の「SM の早期発見・早期対応の重要性、悲惨な予後の実態についての認識」が非常に重要となってくる。

SM の発症の時期3~6歳は保育園・幼稚園および小学校1年時に対応している。この時期に SM の発見と対応に当たることができるのは保育士と幼稚園・小学校の教師である。彼らに SM の早期発見と早期対応についての知識・技術の習得をはかる組織は厚生労働省と文部科学省であり、これらの機関からの通達を受けて、地方公共団体が保育所・幼稚園・小学校の現場に具体的取り組みを促すことになる。

すべての疾患や障害について、それぞれ有病率(出現率)が調べられている。この有病率(出現率)やその種類や程度の基礎資料は、性・年齢・人種などの先天的要因と SM との関係を探る情報や、民族・宗教・言語・文化・地域・時代などとの関係を明らかにするための情報を提供してくれる。さらに、集団参加の時期・集団の質・しゃべらないこと(SM)への保育士や教師の認識・対応の時期・対応法などの要因との関係を解明するための貴重な情報や早期発見・早期対応のシステム作りに関する貴重な情報も提供してくれる。

出現率については、世界的に見ても一致したデータは得られていない(梶・藤田,2015)。これまで実施された調査の中でもっとも大きな悉皆調査はトルコのコジャエリ県(Kocaeli)(人口1,437,926人;2007)の公立と私立すべての幼・小1・2・3年に在籍する子どもを対象にしたものであった(Karakayaら,2008)。この調査は教師に回答してもらった調査で、SM の出現率は0.82%(526/64,103)であった。526人のうち、児童精神科医が SM と確定診断を下したのは21人(0.033%)であった。SM の出現率を一般化できる調査はトルコの調査くらいであり、データ不足である(梶・藤田,2015)。さらに、教師の判断と医師の診断との乖離が大きく、その原因は今後検討すべき課題であろう(梶・藤田,2015)。

そこで、梶・藤田(2015)は神戸市教育委員会・神戸市公立小学校長会の許可と協力のもとに神戸市の公立小学校に在籍する児童を対象として SM の悉皆調査を行った。その結果、SM の出現率は0.15%で男児(0.11%)より女児(0.20%)の方が多く示された。

本研究では、SM の出現率を一般化するための基礎資料を得ることを目的とし、許可と協力の得られた尼崎市の公立小・中学校に在籍児童生徒を対象とした悉皆調査を実施し、小学校の結果を報告する。

【方法】

尼崎市教育委員会を通して、小学校長会に SM の調査を実施する

意義と重要性及び調査方法を説明し、各校特別支援コーディネーターの協力のもと調査を行った。

調査内容(調査項目)と調査方法は神戸市で実施されたものと同じであった(梶・藤田,2015)。

調査用紙の配布と回収は尼崎市教育委員会を通して行った。

【結果と考察】

今回は調査の第1部の学年と性の結果(回収率100%)を報告する。

表1.尼崎市公立小学校における場面緘黙の出現率(%)

学年	男児		女児		合計	
	全体	場面緘黙	全体	場面緘黙	全体	場面緘黙
1	1762	5(.28)	1768	4(.23)	3530	9(.25)
2	1836	5(.27)	1815	11(.61)	3651	16(.44)
3	1874	4(.21)	1810	6(.33)	3684	10(.27)
4	1797	5(.28)	1712	6(.35)	3509	11(.31)
5	1863	1(.05)	1638	7(.43)	3501	8(.23)
6	1841	7(.38)	1746	5(.29)	3587	12(.33)
計	10973	27(.25)	10489	39(.37)	21462	66(.31)

表2.神戸市公立小学校における場面緘黙の出現率(%)

学年	男児		女児		合計	
	全体	場面緘黙	全体	場面緘黙	全体	場面緘黙
1	6547	6(.09)	6040	10(.17)	12587	16(.13)
2	6520	8(.12)	6195	10(.16)	12715	18(.14)
3	6464	6(.09)	6065	12(.20)	12529	18(.14)
4	6399	4(.06)	6296	18(.29)	12695	22(.17)
5	6796	8(.12)	6313	13(.21)	13109	21(.16)
6	6888	11(.16)	6515	10(.15)	13403	21(.16)
計	39614	43(.11)	37424	73(.20)	77038	116(.15)

尼崎市の調査時の人口は46万3463人で、2015年に調査された時の神戸市の人口の約30%に相当する。尼崎市の児童数は神戸市の児童数の27.9%であった。尼崎市の公立小学校における SM の出現率は全体では0.31%で、神戸市の倍であった。尼崎市の SM の出現率は男児全体では0.25%、女児全体では0.37%、男女比は1:1.5で女児が多かった。尼崎市の SM の出現率は神戸市の倍であったが、トルコをはじめとする先行研究のいずれの出現率より低かった。その理由は明らかでない。

尼崎市の SM の出現率は学年ごと、性別ごとに大きな差(バラつき)があり、神戸市の倍の出現率があったが、その原因の解明は今後の課題である。人口46万人の都市の児童の悉皆調査では出現率を一般化するデータを得ることは困難であることがわかった。出現率を一般化するために今後、調査対象数を増やしていく必要がある。

(KAJI Masayoshi, FUJITA Tsugumichi)

【文献】

梶正義・藤田継道(2015) 特殊教育学会第53回大会論文集 かんもくの会(2007,2008,2009,2011) 緘黙症体験記集 1,2,3,4
Karakaya,I,Sismanlar,S.G.,Oq,O.Y.,Memik,N.C.,Coskun,A.,Agaoglu,B.,& Yavuz,C.I. (2008) Selective mutism.A school-based crosssectional study from Turkey.European Child and Adolescent Psychiatry,17(2),114-117.